

まずは気になることを質問！

さあ、鑄金体験です！

鑄金って何ですか？

日本に古くから伝わる金属工芸の一つ。砂で作った「鑄型(砂型)」に溶かした金属を流し込むことで成形する技法です。鑄金では、建物の銘板やドアノブ、神輿の金具のほか、銅像や大仏など大きな物も作ることができます。



▲ジュニア記者は、学校の授業で鑄金について習ったことはありましたが、実際に見るのは初めて。松本さんの説明を真剣に聞きます



砂型作りの砂は「鑄物砂」と呼ばれます。鑄金の作業で使った焼けた砂に新しい砂を混ぜ足しながら使われてきました。100年以上前の砂が混ざっているかも！

この砂、実はすごいです

作品を見てみよう！

堀川鑄金所には、これまでに松本さんと師匠で三代目の父・隆一さんが手がけた作品が、所狭しと飾られています。数々の工芸展で入選していて、昨年開催された「第70回日本伝統工芸展」に松本さんが出品した「臚銀盛器「式」という作品は、日本工芸会奨励賞を受賞しました。



▲臚銀盛器「式」。全国各地の展示会を巡回したあと、三重県の伊勢神宮で展示される予定です



▲中央は、紫銅花器「祥瑞」という作品。「第58回日本伝統工芸展」に出品・展示されました



▲朱銅花器「汀」。「第51回伝統工芸日本工展」に出品・展示されました

いろいろな教えてください。



鑄金のこと

そもそも「鑄金」とは何なのか？ 一体、どのようモノを作ることができるのか？ 若手職人の松本さんに、いろいろ聞きました。さらに、松本さんの指導で鑄金体験もしました。さて、上手にできるかな？



箸置きとお皿を作ります！

いよいよ鑄金体験！ 鑄金の作業は、「原型の準備、型どめ、鑄込み、仕上げ」の順に進みます。今回は型どめからスタート。「失敗してもいいので前向きに挑戦しましょう」と松本さん。大人でも苦戦するという鑄金体験で、どんな作品が完成するかな？



▲砂型作りには、作りたいものの原型と、その押し台が必要です。手前がお皿、奥が箸置き用の原型です



石塚 堅太さん

一つひとつの作業を慎重に！

「型どめ」がとにかく大変です



▲「型どめ」とは、金属を流し込むための砂型を作る作業。押し台の上に原型を乗せて、砂が張り付かないように「別れ砂」と呼ばれる白い粉を振りかけます。別れ砂には、牡蠣の殻から作る白い色の絵の具・胡粉が含まれています

表面が終わったら裏面の作業へ



上下の金枠を押さえながら、胸の前まで上げた砂型を回転させます。ここで御神本さんの砂型が崩れてしまい、再チャレンジ！ 裏面も同じ作業を繰り返したあと、慎重に原型を外します

緊張の「鑄込み」



いよいよ鑄型へ流し込む「鑄込み」の作業。溶けた錫は水のようにサラサラですが、すぐに固まってしまうので素早く流し込みます。両足を左右に広げ姿勢を整えたら、バランスを崩さないようにしっかりと容器を持ち、一気に流し込む！

今回は「錫」を使います



▲砂型に流し込む金属の錫を、柔らかくなるまで溶かします。錫は身近なものにも使われていて、10円玉は銅と錫の合金である青銅でできています

最後はやすりできれいに「仕上げ」

砂型から作品を取り出して水で冷ましたら、やすりを使って表面を整えます。やすりは前後に同じ力で動かさず、押し込むときに力を入れるとしっかりと削れます

ふるいを通して、キメが細くなった砂だけを、金枠の中に原型が隠れるくらいまで入れます。手に持ったふるいを、もう片方の手にぶつけるように動かすとスムーズです

スコップで山盛りの砂を入れ、突き棒という道具で表面の砂を固めていきます。金枠に沿った外周は固くなりにくいので、念入りに押し固めます



御神本 百香さん

砂のさわわり心地はふわふわです

どうして職人の道を選んだのですか？

元々モノづくりが好きだった松本さんですが、この工房の跡を継ぐ予定はありませんでした。父の隆一さんは自分の代で工房を閉めるつもりでしたが、ある日、「国会議事堂で使うドアノブを1000個作ってほしい」という大量注文が入り、その手伝いを始めたことがきっかけで職人の道へ。現在は堀川鑄金所の四代目として、親子二代で活躍されています。



▲松本さんは「もっと多くの人に鑄金を知ってほしい」と、10年ほど前から鑄金体験教室を始めました。鑄金体験ができる場所は数少なく、全国から希望者が訪れます

天井にはたくさんの原型が



作品の原型がずらりと保管されています。かつて西日暮里は鑄物の街として知られ、多くの鑄造所がありました。中央区の日本橋に据えられた青銅製の麒麟像や、千代田区の大手町にある和気清麻呂像は、この周辺の鑄造所が協力して製作しました

松本育祥さんはこんな人

堀川鑄金所四代目。荒川の匠育成事業を活用し、三代目である父・隆一氏(荒川区登録無形文化財保持者。二代目の堀川次男氏(故人、元荒川区指定無形文化財保持者)に師事)のもとで修業。上記の賞のほか、2021年「第61回日本伝統工芸展奨励賞」など多くの受賞歴を持つ。

<堀川鑄金所ご案内>

荒川の匠育成事業の修了者や修業者の若手職人の作品を展示します！

会場 荒川ふるさと文化館1階 荒川かわ伝統工芸ギャラリー

期間 3月15日(金)～6月12日(水)

観覧料 無料

荒川ふるさと文化館イベント

イベント その1 「はばたけ！若手職人展 ～技をつなぐ～」

イベント その2 令和5年度第62回 館蔵資料展「古写真にみる近代あらかわ」

3月31日(日)まで開催中！

会場 荒川ふるさと文化館 1階企画展示室

観覧料 100円

※荒川区在住の中学生以下、65歳以上の方、障がい者とその介助者は無料

上手にできました

テレビや本で鑄物を見たときは難しく思ったけど、無事に作品ができ上がったので安心しました。木材にはない金属ならではのメリットを生かしたものがたくさんあることを知ったし、良い経験になりました。(石塚さん)

鑄金はすごく繊細な作業だと思いました。途中で失敗してやり直すことになったときはちょっと焦ってしまいましたが、時間をかけて一つのものを作る体験は達成感があって、とても楽しかったです。(御神本さん)